

「第9回 日本プライマリケア連合学会学術大会」で発表、最優秀賞を受賞しました

平成30年6月16日～17日に三重県総合文化センターで、「第9回 日本プライマリケア連合学会学術大会」が開催されました。

この会の学生セッションにおいて、本学医学部医学科4年の上原優斗くんが「雪かきは健康によいのか？ 雪かきと握力・社会的役割の関係について 一魚沼市における聞き取り調査より」という演題を、同じく4年の小林賢人くんが「高齢者のうつ、ソーシャルキャピタルと外出頻度の関係 一魚沼市における聞き取り調査より」という演題を発表しました。昨年秋に実施した医学研究実習にて、実際に魚沼市の住民の皆さんひとりひとりにお話を聞いた調査で得られた結果をまとめ、発表しました。

学生セッションということもあり、ほかの大学の学生さんと意見を交換したり、実際に研究をしてみてもの苦勞を語ったり、今後の研究の進め方をお互い参考にしたりと、非常に多くの学びを得ることができました。

この学生セッションにおいて、小林くんが最優秀発表賞を受賞しました。この賞は、今回の学会から設定されたもので、4名の審査員による合計点により、最優秀発表賞1演題、優秀発表賞2演題が選ばれます。小林くんは、その初代最優秀発表賞に選ばれました。小林くんのわかりやすく堂々とした話し方はもちろんのこと、これまでの5年間にわたる次世代医療人による魚沼市でのソーシャルキャピタル調査を評価いただけたものと思います。ご協力頂いた皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

